

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東京イノベーション開発センター	階数	地上4F
建設地	横須賀市光の丘4164番14、15(計2筆)	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条地域	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年4月12日
敷地面積	11,949 m <sup>2</sup>	作成者	プラナス株式会社
建築面積	2,796 m <sup>2</sup>	確認日	2017年4月12日
延床面積	7,921 m <sup>2</sup>	確認者	プラナス株式会社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 2.4** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.5

**LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
イノベーションイメージを誘発させ、コミュニケーションやコラボレーションが自然に生まれる空間。働きやすく、ライフサイクルコストに配慮し、未来を見据えたラボラトリーとする。		
<b>Q1 室内環境</b> ゾーン別空調やタスク・アンビエント照明、ホルムアルデヒド規制対象外建材の使用など、快適な作業環境を維持しながら、省エネにも配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> 2.7m以上の天井高の確保や、OAフロア、建築基準法の25%増の耐震性の確保など、将来の更新性などに配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 既存緑地の保存や流線型の外観、GL+10m以上の高さからの排熱など、周辺地域への影響にも配慮した計画とした。
<b>LR1 エネルギー</b> 省エネ法の評価項目である外壁の断熱性能の向上などに配慮した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 雨水利用システムを採用し、水資源の保護に配慮した。また、乾式の仕上材を採用することで将来の変容性にも配慮した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地環境の現地測定や建物の形状や配置位置の検討など、周辺環境へ与える影響について配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される